



アメリカ文学と異文化理解 ～他者の声に耳をすます～

国際社会学部 国際社会学科
生田 和也 准教授

私はアメリカ文学を主な研究対象としています。現在の関心は可傷性(vulnerability)の表象を探ることです。耳慣れない言葉かもしれませんが、これは個人の自立・自律が重要視される現代において、他者や環境との関係性から個人と社会のあり方を再考するために用いられる概念です。アメリカの小説や映画では、特定の個人が努力によって成功をおさめるアメリカン・ドリーム物語がよく描かれます。しばしばアメリカ小説の代表作と称される『グレート・ギャツビー』は、夢と理想の実現のために生涯を捧げた男性の物語です。またディズニー映画の『プリンセスと魔法のキス』では、主人公ティアナが夢の実現のために日々の努力を惜しみません。アメリカの物語が強くてたくましい人物たちを描いてきた一方で、本研究は個人の弱さ、他者との繋がり、そしてケアが現代までいかに語られてきたかに注目し、従来のアメリカ的価値観の再考を促すものです。非常に

大きな研究課題ですので、国内外の研究者との共同プロジェクトとして取り組んでいます。

また、大学では英語や異文化理解も扱っており、ここでは身近な翻訳についても話題提供をしたいと思います。ある言語で書かれた文を別の言語に翻訳する際には、ふたつの文が「等価」になることが原則です。例えば、ジブリ映画の「となりのトトロ」の英語タイトルは“My Neighbor Totoro”であり、ふたつの意味が等しくなるように翻訳されています(実際は微妙な違いも面白いのですが、ここでは割愛します)。一方、『耳をすませば』の英語訳は“Whisper of the Heart”です。この事例では、日本語と英語で意味が異なるように見えますが、実はとても優れた翻訳になっています。ご興味のある方は、日本語と英語のふたつの題の関係性を糸口に、なぜこれが翻訳として機能するのかを考えてみてはいかがでしょうか。



パリ・シテ大学での国際学会